

令和2年度実施 市民提案型協働事業

企 画 提 案 書

令和2年度実施 市民提案型協働事業

企画提案一覧（新規事業）

	部門	事業名	提案団体名	事業担当課	ページ
1	自由	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	NPO 法人 フードバンクひらつか	環境政策課	1
2	自由	バリアフリーサポートサイト構築（障害者・高齢者向け）	特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット	交通政策課	9

令和元年5月

平塚市

2020年度「企画」提案書（市民提案型協働事業）

(宛先)

平塚市長

団 体 名	NPO 法人フードバンクひらつか
代 表 者	大関めぐみ
市民提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続（平成 年度～）

- 添付文書：団体の会則（定款等）、団体の直近の決算書と予算書
- 確認文書：総合計画該当チェックシート、企画提案書作成時確認シート

1 提案内容

部 門	<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門	テーマ名	
①事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業		
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>【平塚市における食品ロスと相対的貧困】 平成 31 年 4 月 12 日に公表された平成 28 年度推計によると、我国における食品廃棄物 2759 万トンのうちまだ食べられる食品は 643 万トンと言われ、一人当たり 136 g の食品が毎日捨てられております。SDGs の観点からも我国がヨーロッパの諸国と比較し、のきなみ評価が低いのは、世界の飢饉を救える 320 万トンと言われる食品の倍に相当する量を廃棄していることも要因として上げられております。また、先進国と証されながら、貧困における不平等さにおいても最高点を取れずにいる理由として、相対的貧困の多さがあげられています。この二つの問題を同時に解決する糸口として、捨てられてしまう食品を、相対的貧困者へ届けるべきだと考えています。</p> <p>この平塚においても 136 g × 25 万人 = 34 トンのまだ食べられる食品が日々捨てられていると考え、相対的貧困率 16% とし、約 4 万人の相対的貧困者に、日々 850 g の食品を届けられると考えられます。お茶碗 1 杯 150 g とすれば副食を考慮しても、3 食に相当する量が行き届く計算になります。</p> <p>【平塚市の食品ロスと相対的貧困の解決案】 私たちは、こうした机上論だけではなくフードバンクひらつかとして活動をはじめ、多くの利用者様に食品を届ける過程で、「食べられるものがあると言うことがどれ程の活力になるか・・・」という声や、子供たちの「お菓子って本当においしいね」という声を、声を上げられない様々な世帯に広げるべきだと思っております。市内にはおいしい食事を提供する飲食店がたくさんございます。また、食品を扱う小売店も然りです。こういった利用者様のお子様たちはその様々な味を知ることなく大人になります。</p> <p>この食品関連事業者からでももったいない食品を、この子供たちにいきわたらせることは可能だと思っております。また、貧困は子供たちから、自分はどうして望むことが叶わないのかという疑問すら奪い、後に「どうせ自分なんか・・・」という圧倒的な諦めを植え付け、貧困の連鎖を招くこととなります。食費以外に収入を回せるようになれば、子供たちの将来に当てることができるお金も家庭に残るはずで、子供は皆、天才であり、宝です。本プロジェクトに市が関わり、彼らに手を差し伸べることで、必ずや平塚市の未来を担う存在に成長していくでしょう。</p>		

<p>③協働の必要性・メリット</p> <p>なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。</p> <p>また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。</p>	<p>必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業を起こすには、まず食品関連事業者の参加は必須です。食品関連事業者の実際の声として、食に対する安全性の担保を想像できる信頼が必要になります。公共団体ほど信頼を得られる団体はなく、食品関連事業者の参加を得やすくなると思います。 ・一般廃棄物の搬入手数料の安さは、食品リサイクルを進める最大の壁として立ちふさがっています。しかしかつて、廃プラスチックを一般廃棄物から産業廃棄物へと、本来の廃掃法の形に転換させた際も、また、環境事業センターへの搬入手数料の値上げの際も、公的な見解や文書は最大の効果を発揮しました。また、フランスでは、スーパーマーケットから食品廃棄物を出すことを禁止する条例があると聞きます。このように、食べられる食品を捨てないということを実践するには、市民の想いに加えて、市の方針やルールが必要だと思えます。この二つが揃うのが協働事業なのだと思います。 ・昨今スマートフォンは一部の高齢者層を除いて、富裕層から年収 200～300 万の低所得者層まで収入の格差に関係なく、平等なインフラとして幅広く普及しています。よってインターネットを使った貧困格差をなくす施策は、ネットを利用して積極的に支援を探せる多くの世帯にとって、大変有効かつ容易と考えます。 ・一方、ネット環境を使わない世帯や、ネット環境があっても相対的貧困であることに気づいていない世帯が、この事業を認知することは至難です。啓発、宣伝において公共の手段を使えることは、利用者拡大に大きな貢献をしてくれると考えています。また、こういった活動を知り支えてくださる市民も今以上に増えると考えられます。
	<p>メリット</p> <p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[一般市民]安くおいしい食べ物を食せる機会が増えます。『誰もが希望を感じる街・平塚』を築くための社会活動に参加することで、心豊かな人生観を育むことができます。 ・[フードバンク利用市民] 相対的な貧困の解消、貧富の差を縮めることができます。食事を取れることで勤労の意欲がわきます。(「この店で外食できる生活水準になろう」等、現実的な夢や希望を持ち、脱貧困への具体的な行動計画につながるきっかけを作れます。) ・[飲食店]廃棄に関わる経費が減り、利益が増えます。宣伝広告とは別の PR 手段として、新規顧客の来店機会を作ることができます。創業間もない店舗やファンづくりに苦慮する店舗の支援にもなります。(購入者が SNS 等で発信する機会に繋げる)。「フードバンクひらつか」のロゴを掲示する等で、CSRとして企業のイメージアップに繋がります。 ・[市内のサプライヤー]地域ビジネスの活性化につなげる。(例：平塚産の食材を●%使っているなら、飲食店のアプリの利用料を▲%割引するなどの施策で、飲食店の地産地消を促し、市内のメーカーや卸業者、生産者の販売機会を増やすことに繋げる。) ・[システム提供企業]行政・NPO と連携した事業実績を作ることができます。CSRとしてイメージアップ、社内文化醸成に役立ちます。

	<p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の信頼性を持って、独自で実施するよりはるかに短時間でこの事業を周知することができます。 ・利用者、提供者ともにはるかに多く参加していただくことができます。 ・アプリの利用料として資金を得られることで、フードバンク活動の充実にも繋がります。 <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フードバンクとしての活動にリンクして、企業の力を終結し費用以上の技術を使うことができます。 ・当団体を応援してくださる、お金で集った人間ではなく、思いを持った人間の力を借りることができます。 ・公共の制度ではなく、市民の声として活動を進めることができます。 ・『誰もが希望を感じる街・平塚』を築くための施策として PR することで、市のイメージアップにつながります。 ・食品ロスを減らすことが出来ます。廃棄物の減量にもつながる可能性があります。
<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。</p>	<p>この事業は、アプリケーションソフトを使い、事業者等がまだ食べられるのに廃棄になってしまいそうだと感じた食品の情報をアップロードし、半額程度で販売をし、アプリ利用者がその情報をもとに事業者の元へ行き購入、その利益の一部を運営費に充てるという形式を想定しています。また、フードバンクの利用者にはさらなる割引、もしくは無料などのメリットも出して行けたらと考えています。さらに、参加している飲食店には、余らせる食品を減らす取り組みとして、顧客に事前に量の調整を申し出てくれるような啓発をしていきます。そういった取り組みをする店舗のテーブルに啓発用のアイテムを置かせていただくようにしたいと考えています。</p> <p>この事業は事業者、市民、運営の三者が win-win-win になると考えられますが、課題も考えられます。</p> <p>東京で行われている取組は 23 区に限られていますが、東京 23 区 900 万の人口に対し参加している飲食店は 200 店舗ほどです。</p> <p>→利用者の声として、アプリに掲出される食品が少なく直ぐに売り切れてしまう、交通費が馬鹿にならないなどが挙げられていますが、我々の事業は飲食店に限らず、すべての食べられる食品を廃棄する事業者に拡大し登録を促していく予定です。これは運営団体が利潤の追求を目的とした企業では難しいかもしれませんが、利潤だけの追求を目的としないフードバンク事業と絡めて、事業者に本事業のメリットと将来性、社会的意義を十分理解いただけるよう説明し、参加を仰ぐことは可能だと考えています。また、家庭菜園や、産業廃棄物として処理するにはもったいない商品なども視野に入れ、それを市内の飲食店に調理していただき、そのメニューもアプリに掲出できたらと考えています。</p>

	<p>交通費に関しては、市内であれば23区程はかかりません。23区と比較し市場がただ広い大綱を投げるやり方ではなく、範囲が狭いということこそが、まだ食べられる食品廃棄物を根こそぎ市場に戻すには程よい規模であると考えています。</p> <p>アプリの開発については、IT企業に相談し、開発可能だという見解を頂いておりますので実行可能だと考えます。予算についても経験豊かなIT企業に試算していただいています。</p> <p>さらに、フードバンクひらつかにおいても、市内の廃棄物収集運搬会社で営業の責任者を10年程務めていた人材もおり、廃掃法、排出事業者などを熟知しており、今回のアプリを広める営業活動を担当します。</p>
<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>携帯電話用アプリケーションを開発し、そのアプリ上に飲食店や小売店にあまってしまふ食品をアップロードしてもらいます。登録料は無料の予定です。その食品をアプリ利用者（利用者は市民、市民のアプリ利用料も無料）が購入予約をし、店舗に訪問して受け渡し完了します。商品代金は店舗へ支払います。その売上げの15%を手数料として頂戴し、運営費用に充てていく事業です。</p> <p>4月</p> <p> フードバンクひらつかの協力企業様のみでアプリの開発開始 （フードバンクひらつか2名）</p> <p> 平塚市は広報を担当</p> <p> 市内事業者への営業活動開始（フードバンクひらつか3名）</p> <p>5～7月</p> <p> 各前月に上がった課題を解決しながら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリの開発（2名） ・広報 ・営業活動（3名） <p> を展開し、事業者200社の登録を目標にする</p> <p>8～10</p> <p> アプリ本格運用開始（1名）</p> <p> 5～7月同様</p> <p> を展開し300社の登録を目標にする（2名）</p> <p>11～3月</p> <p> 8～10月同様</p> <p> 12月のクリスマス商戦、1月のおせちなどを視野に 季節ものを活用する</p>

<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <p>アプリの開発。イベントでの広告。メディアの協力を得た広告。事業者へのアプリの説明。新規開拓営業。アプリ利用者の獲得。アプリ運営全般。</p> <hr/> <p>(市の役割)</p> <p>排出事業者の情報。公共施設を使った広告。メディアを使った広告。役所各課との連携。保健所との連携。事業者への提案同行。</p>
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、自治会・地域団体・他の市民活動団体等と連携の実績や予定があれば記入してください。</p>	<p>株式会社アクアリーフ・・・アプリ開発</p> <p>JC・ライオンズクラブ・・・飲食部会等の紹介</p> <p>生協グループ・・・会員への周知</p> <p>一般廃棄物収集運搬許可業者・・・排出事業者への提案</p> <p>商工会議所、地域の大学、地元の金融機関などにも参加要請をしていく予定です。</p>
<p>⑧事前調査の有無</p> <p>ニーズの把握、他市の事例など調査したことがあれば記入してください。</p>	<p>アプリを使った、フードロス対策事業は2018年4月より運用が始まり、現在東京23区のみでの運営で、順次全国展開予定です。一方で都内ですら200店舗のみの協力でとどまっているため、利用者から飽きられるという声もあります。またマクドナルド、ゼンショーなど大手チェーンはフードロスアプリには賛同せず、企業イメージや安全性の確保をその理由としています。しかし一方で7&i イオンなど食品リサイクルに重視を置く企業もあり、今回のアプリに関し、小売店も巻き込む必要性を感じます。</p>
<p>⑨事業実施後の展望</p> <p>次年度以降、この提案事業の展望や、事業の成果をどのように活かしていくのか記入してください。</p>	<p>【コミュニティビジネスの抱える問題】</p> <p>NPO 法人の多くは寄付に頼り、寄付金が途絶えると活動休止に追い込まれるような図式から抜け出せずにいます。一過性の話題や寄付、企業のイメージ戦略ゆえの支援では活動は継続できません。Web 検索でフードロスの後にスペースを入れると「通販」「取組」「アプリ」と続きます。</p> <p>通販サイトもこの一過性と寄付頼みであることは否めず、せつかくのフードロス対策がどこまで浸透するのか不安があります。</p> <p>アプリもまた同様です。この共同事業で多くの方の目に触れ、暖かい心で寄付や賛同を頂けても、長期的に期待することは出来ません。</p>

【問題解決策】

この活動を今後も継続、発展させていくためには、持続可能な活動すなわち、経済活動に発展させていくほかありません。

先に、このアプリを取り巻く三者は win-win-win だと記載しましたが、実は win の大きさが全く違います。おそらく最少は事業者です。これもまた先に記載しましたが、事業者の参加なしには成立しない事業です。事業者が積極的に参加するためのメリットを用意し win を確保する必要があります。この活動に参加する事業者のイメージアップ、宣伝効果などに繋がる施策も取り入れることは当然とし、他市からの来客も見込めるようなアプリ事業への発展が今後の展望となります。成功事例として、特産品や B 級グルメなどがあげられますが、次年度以降はそれに代わるものを創作することも並行していくことになります。

【平塚市らしい未来の発展へ】

平塚は観光客が少ないものの、住む人に軸足を置いた施策をしてきた街であり、各事業者も観光客頼みの商売とは違いリピーターを作る努力をしてきました。湘南、西湘地区の真ん中に位置し、観光客の増加で疲れた周辺地域の人々の充電タウンとして、充実したショッピング、「食堂楽」の村井弦斎の DNA を受け継ぐ「お値打ちグルメの街」として、周辺市からの流入・転入を増やし、独自の発展していく未来を作っていける筈です。他市にはできない「平塚にしか出来ない役割」があり、本事業は平塚のイメージ UP 戦略の一翼を担いうるものと考えています。

【フードバンクの活動】

次年度以降フードシェアリングの基幹となる拠点を作っていきたいと考えています。理想を言えば空き家を活用した町内ごとの拠点に冷蔵庫を置き、ドイツで行われているような家庭における冷蔵庫整理やそれに伴った食材の持ち寄りなどができれば理想的ですが、まずは市内に一か所拠点を作ることを目標としたいと思います。そこで持ち寄られた食材は、事業者や市民にお配りしたり、その拠点で調理したり、フードバンクひらつかで利用者様にお配りしたり、また、地域食堂的な役割も担います。その拠点の在庫やメニューは常時アプリに掲出され利用者にも品数等で満足いく内容にすることも一役買います。

また全食品ロスの半数程を占めるといわれる家庭からの食品ロスを集約する場としても活躍することになるでしょう。

アプリの周知と利用者、事業者の確保。

持続可能な活動

フードシェアリング拠点の立ち上げ

これを三年間の成果としていきたいと考えています。

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) とくていひえいりかつどうほうじん ふーどばんくひらつか		
	特定非営利活動法人 フードバンクひらつか		
②所在地	〒 平塚市		
③ホームページ	http://foodbank-hiratsuka.com		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	久松周史	(役職) 副理事長
	電話	(連絡可能な時間帯) 8-19時	
	FAX		e-mail
	住所	〒 平塚市	
⑤設立年月	2017年 7月 (法人格取得年月 2018年 12月)		
⑥会員の状況	個人会員	16人 (うち平塚市民 14人)	団体会員 1団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>まだ食べられるのに捨てられてしまう食品を一般家庭や企業などから寄付を受け、ひとり親家庭や支援を必要とされる方、児童福祉施設などへ食品を無償で支援する活動を行っています。</p> <p>行政とも連携を図りながら、貧困をなくすことを目指して活動していきます・活動実績は、支援登録世帯 150 世帯を超え、福祉施設を含め延べ 930 人以上、約 46750 点の食品をお届けしてきました。(2018.12 時点)</p>		
⑧協働事業との関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①	久松 周史	営業 開発
	②	岡田真一	営業
	③	露木勝義	営業
	④	大関めぐみ	総括
	⑤	瀧澤好美	開発 営業
	⑥	長谷川智史	開発
	⑦	齊藤園枝	
	⑧	藪下佐知子	
	⑨	正木光江	
⑩	戸部たづ子		

令和2年度「企画」提案書（市民提案型協働事業）

(宛先)

平塚市長

団 体 名 特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット

代 表 者 小林 信武

市民提案型 新規 継続（平成 年度～）

○ 添付文書：団体の会則（定款等）、団体の直近の決算書と予算書

○ 確認文書：総合計画該当チェックシート、企画提案書作成時確認シート

1 提案内容

部 門	<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門	テーマ名	
①事業名	バリアフリーサポートサイト構築（障害者・高齢者向け）		
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>平塚市では「平塚市バリアフリー基本構想」及び「平塚市バリアフリー基本構想に基づく事業計画」に沿い、重点整備地区を定め公共施設や公共交通機関・道路等対象に優先的にバリアフリー整備を推進中であり、整備状況は行政をはじめ各事業者により各々市民への発信が行われている</p> <p>一方、このサービスの享受者である障がい者・高齢者等市民からすると整備の情報は市のホームページや冊子・配布資料、対象の各施設、更に交通機関のホームページ等断片的なものと言わざるをえず、それぞれを確認しなければならないという面倒な作業が強いられる。加えて網羅性にも不安が残る。</p> <p>このような状況からバリアフリー情報をワンストップで提供する市民（生活者）目線での特化したポータルサイトが必要である。不安や不便を感じることなく市民や来訪者が平塚を快適に移動できる様なまちづくりが望まれている。</p> <p>加えて、公共施設のみならず市民の日常生活に必要な施設も含める事により利便性の更なる向上に寄与するものと思われる。</p>		
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必要性	<p>バリアフリー整備は前述のように公共施設や公共交通機関・道路等対象となるが、まさに行政＝市が一体として推進する市民サービスの一つである。従って関連する情報等はすべて行政（およびバリアフリー推進協議会）が持たれているので、提供戴く事が事業の前提になる。</p> <p>また、構築サイトを通じて、障がい者や高齢者等市民からその評価やご意見を事業者側にフィードバックすることにより本サービス事業の質の向上も期待できる。</p> <p>利用者である障がい者や高齢者等市民がバリアの問題を容易に且つ漏れなく確認でき、安心して街歩きに出かけられ、市民の行政サービスに対する満足度の向上が期待できる。</p>	

	<p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) ターミナルや訪問先施設、移動交通手段や道路、支援者情報等のバリアフリーの状況を個別に確認必要な状況から、ワンストップで容易に確認できることにより、情報の壁と移動の壁を限りなく低くでき、障がい者や高齢者が平塚の街歩きを一層楽しんでもらえることが期待できる。</p> <p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) 行政が行っているバリアフリー整備事業のデータがベースとして活用でき、推進を構成する諸団体との情報交換や協力依頼等の仲介戴く事等も期待でき、そういったものが反映されればポータルサイトの有用性、信頼性、網羅性、経済性等の向上が大いに図れる。</p> <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) 本ポータルサイトより、障がい者や高齢者の目線に沿い、バリアフリーの情報を伝達する事により利便性が増し、その情報に対する評価、要望を吸い上げ市にフィードバックすることにより、行政サービスの質の向上、ひいては平塚市の魅力アップに繋がる事が期待できる。</p>
<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。</p>	<p>全国的に施設＝点のバリアフリー整備は行われているが、施設から施設の移動＝線を含めた整備の状況を情報として一貫して提供しているところは殆ど見られない。大変便利な注目されるサイトになると確信する。今後観光促進という観点からも牽引の一躍を担えるのではないか。</p>
<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>初年度は、特定の公共施設や他生活関連施設、駅から施設間の経路の現地検証による情報データベースの構築とプロトタイプを構築し、行政・推進団体等のニーズやユーザの意見など情報収集を行い、以後の開発に繋げる。</p> <p>4月～6月 現地検証等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらつかバリアフリーマップの作成支援 ・行政の既存データの分析 <p>7月～9月 データベースの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設や生活関連施設、駅から各施設までのルート等の現地検証 ・データベースの構築 ・プロトタイプの制作 <p>10月～12月 プロトタイプの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連各団体との意見交換、利用者意見交換会開催 ・プロトタイプの修正・改善 <p>1月～3月 ポータルサイト原型作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レイアウト・テンプレートの完成

<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設等のバリアフリー情報の現地検証 ・ 駅から公共施設等に至るルートの現地検証と市との推奨ルートの策定 ・ 推進協議会参画団体等からの当団体へのデータ取得と検証 ・ ポータルサイトの構築・運用 ・ ひらつかバリアフリーマップの作成支援 <hr/> <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バリアフリー整備データの提供 ・ 推進協議会参画団体等に対する当団体へのデータ提供 ・ 推進協議会参画団体等に対する製作段階での調査依頼の協力要請 ・ 会議やイベント等の会場の確保提供 ・ 制作過程における助言（利用者の評価も含む）
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、自治会・地域団体・他の市民活動団体等と連携の実績や予定があれば記入してください。</p>	<p>平塚市のバリアフリー整備事業を総合的に推進されている「平塚市バリアフリー推進協議会」を構成する各団体との情報交換やご協力を戴く事は、本協働事業を進める上で必要不可欠と思われ是非お願いしたい。</p>
<p>⑧事前調査の有無</p> <p>ニーズの把握、他市の事例など調査したことがあれば記入してください。</p>	<p>現状調査で以下を含むいくつかのサイトをチェック。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県ライトセンター（視覚障害者支援施設） http://www.kanagawalc.org/ ・ 情報バリアフリーポータルサイト http://jis8341.net/outline.html ・ バリアフリーOKINAWA https://okibf.jp/
<p>⑨事業実施後の展望</p> <p>次年度以降、この提案事業の展望や、事業の成果をどのように活かしていくのか記入してください。</p>	<p>バリアフリーとは非常に広範囲にわたるテーマで事業は長期間安定した運営や改善が必要と考える。</p> <p>次年度以降は、エリアを拡大し重点整備地区およびその周辺の生活関連施設もカバーし、サイトの完成に近づける。また利用者の活用支援のイベントの開催も数回実施計画したい。アクセスビリティについては平塚市の方針に従い装備する。</p>

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フガナ)トクテイヒエイリカツドウホウジン ショウナンフジサワシニアネット		
	特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット		
②所在地	〒 神奈川県藤沢市		
③ホームページ	https://www.sfs-net.com/		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	小林 信武	(役職) 代表理事
	電話	(連絡可能な時間帯) 10時～17時	
	FAX		e-mail
	住所	〒 神奈川県藤沢市	
⑤設立年月	平成16年7月	(法人格取得年月)	(平成16年7月)
⑥会員の状況	個人会員	100人 (うち平塚市民 2人)	団体会員 団体
⑦活動内容・活動実績	当団体は「(地域)社会に貢献」することを目的に、IT教育、PC&LAN、ホームページ制作支援、ビジネスサポート、「えのぼ」ポータルサイトの運営、健康づくり、環境、福祉・医療支援及び学習支援や自治会町内会応援、いきいきシニアライフ応援等多岐にわたり活動を行っている。ホームページ制作支援グループの協働事業実績としては、平塚市との「ひらつかスポーツナビ」、茅ヶ崎市との「ちがさきエコネット」や「茅ヶ崎市立図書館デジタルライブラリー」、藤沢市との「えのぼ」「おいしい藤沢産」等。		
⑧協働事業との関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①代表理事	小林 信武	総合監修
	②	梅津 仁	プロジェクトサブリーダー
	③HPWG リーダー	山本 実	プロジェクトリーダー
	④	岩本 勲	地域情報担当
	⑤	松本 勝廣	障がい者対応担当
	⑥	中野愛子	障がい者対応担当
	⑦	大屋 憲彦	プロジェクトマネージャー
	⑧	瀬下 孝之	技術問題担当
	⑨動画WG リーダー	市川 幸利	動画関連担当

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	2,657,500円	市の支出	2,657,500円
		団体の支出(他の収入等)	0円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 2,657,500	
団体の支出		
事業収入		
収入合計	A 2,657,500	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
人件費	90,000	90,000	プロジェクト管理 1人×60工数×1,500円
同上	90,000	90,000	企画 1人×60工数×1,500円
同上	180,000	180,000	施設検証 2人×30ヶ所×3hs×1,000円
同上	240,000	240,000	ルート検証 2人×30ルート×4hs×1,000円
同上	95,000	95,000	関連団体との協議 2人×10団体×2hs×2回×1,000円、利用者意見交換会 5人×3×1,000円
同上	1,200,000	1,200,000	サイトのプロトタイプ作成作成 4人×1,500円×200hs
同上	180,000	180,000	市との定例会 5人×1,500円×2hs×12回
人件費(計)	2,075,000	2,075,000	
事務用品	100,000	100,000	ソフト購入、インク代等
同上	50,000	50,000	サーバ・ドメイン費用
事務用品(計)	150,000	150,000	
旅費交通費	210,000	210,000	片道料金700円×150往復
消費税(人件費・事務用品)	222,500	222,500	
支出合計	B 2,657,500	D 2,657,500	

注) 収入合計 **A** と支出合計 **B**、及び、市の支出 **C** と支出合計 **D** は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※総事業費及び市の支出金額は、応募時点での団体からの提案額であり、提案団体と事業担当課との意見交換の中で変更される場合があります。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表いたします。